

レオナルド・ダ・ヴィンチと
「アンギアーリの戦い」展
～日本初公開「タヴォラ・ドーリア」の謎～



16世紀の画家
《アンギアーリの戦い (タヴォラ・ドーリア)》
16世紀 油彩/板 85.0×115.0 cm
ウフィツィ美術館蔵 (東京富士美術館より寄贈)
[東京][京都][仙台]

Anonymous 16th-century artist
The Fight for the Standard in the Battle of Anghiari (Tavola Doria)
16th Century Oil on wood 85.0 × 115.0 cm
Galleria degli Uffizi, Florence (Donated by Tokyo Fuji Art Museum)

1440年にミラノ軍とフィレンツェ軍との間で起こったアンギアーリでの戦いの中の「軍旗争奪」の場面。この構図は、レオナルド・ダ・ヴィンチが、シニョリーア宮殿(現ヴェッキオ宮殿)の壁画として構想したもの。本作は「ドーリア家に伝来した板絵」との意味で「タヴォラ・ドーリア」とも呼ばれる。

開催趣旨



レオナルド・ダ・ヴィンチの未完の大壁画制作計画《アンギアーリの戦い》は、今も多くの謎と痕跡を残しています。同壁画はフィレンツェのシニョリーア宮殿(現ヴェッキオ宮殿)の大評議会広間(現在の「五百人広間」)を飾るため、行政長官ピエロ・ソデリーニによって16世紀初頭にレオナルドに発注されました。イタリア・ルネサンス美術の歴史の中でも、最も野心的な装飾計画のひとつとされています。またこの一連の装飾計画はレオナルドとミケランジェロが戦闘画において競演を演じたエピソードでも有名ですが、レオナルドの壁画と同じ広間に描かれるはずだった《カッシナの戦い》についてもミケランジェロの原寸大下絵に基づく模写によって知ることができるのみで、その計画の全貌は今も多くの謎に包まれています。レオナルドはこの壁画を完成させることができませんでしたが、部分的に描かれた壁画はその後、半世紀以上のあいだ人々の見るところとなりました。しかしその壁画は、最終的に1560年代前半にジョルジョ・ヴァザーリの新たな壁画装飾によって覆われてしまいました。それでもレオナルドの作品は、激烈な戦闘場面を描く絵画表現の新しい基準を確立し、その後に続く世代の芸術家たちに大きな影響を与えることとなったのです。

本展の中心をなす作品は、失われたレオナルドの壁画の中心部分をなす激烈な「軍旗争奪」の戦闘場面を記録した、日本初公開の《タヴォラ・ドーリア(ドーリア家の板絵)》として知られる著名な16世紀の油彩画です。本展ではさらにミケランジェロが構想した壁画の原寸大下絵を模写した、同じく日本初公開の16世紀の板絵《カッシナの戦い》を並べて展示し、かつてシニョリーア宮殿を舞台に実現するはずだった巨匠の競演の部分的な再現を試みます。さらに、レオナルド自身による同壁画の準備習作素描、レオナルドの構図に基づくその他の模写作品や派生作品、関連する資料類、関連する歴史的人物の肖像画が出品され、多くの写真を用いた歴史的解説のパネルと合わせて、レオナルドが試みた視覚の革命を検証し、イタリア美術史上の一大エピソードである失われた壁画の謎と魅力に迫ります。



アリストテレ・ダ・サンガッロ
《カッシナの戦い》の模写（ミケランジェロ原作）
1542年頃 グリザイエ/板 76.4×130.2 cm
ハウカム・ホール、レスター伯爵個人コレクション
[東京][京都]

Aristotele da Sangallo
Battle of Cascina, copy after Michelangelo's cartoon
c.1542 Grisaille 76.4 × 130.2 cm
Holkham Hall, Collection of the Earl of Leicester
© Collection of the Earl of Leicester, Holkham Hall, Norfolk / Bridgeman Images / DNPartcom

1364年にカッシナに程近いアルノ川沿いで水浴びをしていたフィレンツェ軍をピサ軍が急襲した時の場面。この16世紀の板絵は、ミケランジェロがシニョリア宮殿（現ヴェッキオ宮殿）の壁画として構想した作品の下絵をサンガッロが模写したもの。

レオナルドとミケランジェロ 幻の競演がここで



アントニオ・ナターリ
(ウフィツィ美術館 館長)

このたび、東京富士美術館の寄贈により、ウフィツィ美術館の新収蔵作品となった《タヴォラ・ドーリア》が、その他の当館所蔵の重要な作品とともに、東京富士美術館に貸与されることとなりました。これは、私たちフィレンツェ地域の美術館が、新たに日本の美術館と親密な文化交流の道を開くということの証であります。今回、私どもフィレンツェ地域の美術館が、日本の美術館と相互の協力関係を更に強固なものとし、日伊文化交流の発展に貢献できることを念願するとともに、本展が大きな成果を上げられることをお祈り申し上げます。



越川倫明
(東京藝術大学 副学長 教授)

レオナルド・ダ・ヴィンチとミケランジェロが同じ空間を舞台に腕を競い合った《アンギアーリの戦い》と《カッシナの戦い》は、ともに完成をみなかったにもかかわらず、後世に巨大な影響を与えた画期的な作品です。ウフィツィ美術館の《タヴォラ・ドーリア》とレスター伯爵コレクションの《カッシナの戦い》模写が一緒に展示される今回の展覧会は、文字通り世界でも初めての試みといえるでしょう。本展には、東京藝術大学美術学部の芸術学科と彫刻科が「受託研究」というかたちで学術協力を行なっています。多くの方々にご観覧いただければ幸いです。



ドメニコ・ジョルジ
(駐日イタリア大使)

イタリア共和国と東京富士美術館との文化交流協定に基づき、その最初の企画展として実現した本展の開催を心から歓迎したいと思います。本展をご覧になる皆様は、ルネサンスの巨人ダ・ヴィンチの息を感じ、ミケランジェロとの幻の競演について思索を巡らせることができるでしょう。《タヴォラ・ドーリア》は2015年のミラノ万博にも出品されることになっています。今後も東京富士美術館の活動を通して、イタリアと日本の文化交流がさらに活発になることを期待しています。

●本展は以下の6セクションから構成されます。

プロローグ ※ レオナルドの記憶

レオナルドのオリジナル素描の特別展示とレオナルド代表作の同時代の模写作品から彼の絵画世界の一端をご紹介します。

第1章 ※ アンギアーリ前夜～シニョリーア宮殿と「大評議会広間」

イタリア美術史上の一大エピソードの舞台となったソデリーニ時代のシニョリーア宮殿(現ヴェッキオ宮殿)。レオナルドとミケランジェロの競演は、未完に終わったにも関わらず、同時代の画家たちの模範となり戦闘図の表現に革命的な変化をもたらしました。そして現代にいたるまでその壁画探索の試みは美術史上の重要な課題ともなっています。かつてレオナルドが取り組んだ《アンギアーリの戦い》をテーマとした装飾計画について、当時の時代背景とともに、関連人物の肖像画やメダル、シニョリーア宮殿を描いた絵画作品などを通して紹介し、失われた壁画の壮大なスケールと重要性に思いを巡らします。

第2章 ※ 失われた傑作～レオナルドの《アンギアーリの戦い》への手がかり

現在遺されている《アンギアーリの戦い》の模写作品群と、日本初公開となる《タヴォラ・ドーリア》、そしてレオナルド自身による準備素描を比較して鑑賞し、レオナルドが描こうとした革新的な戦闘図にせまります。とりわけ一連の作品の中でも最良の一点とされ、レオナルドが生きた時代にさかのぼる《タヴォラ・ドーリア》と、同じく同時代の模写であるヴェッキオ宮殿博物館の板絵の比較は見どころの一つとなっています。また、現存する模写作品に共通して描かれている壁画の中心部分である「軍旗争奪」の場面は、かつてジョルジョ・ヴァザーリが「馬のもつれあい」と呼びましたが、その複雑な人馬の絡み合いについて、立体モデルを用いた直感的にわかりやすい展示を試み、レオナルドが本図で示した構想の卓越性に注目します。

第3章 ※ 競演の舞台～アンギアーリとカッシナ、ミケランジェロとの対決

シニョリーア宮殿を舞台としたレオナルドとミケランジェロの競演は、美術史上の重要なエピソードとして知られています。本章では同じく現存しないミケランジェロの《カッシナの戦い》の原寸大下絵に基づく16世紀の模写(レスター伯爵コレクション所蔵)を中心に、二大巨匠が取り組んだ新たな戦闘画のスタイルが同時代の画家たちに与えた影響について考察します。これらは、ラファエロをはじめ、フィレンツェの画家たちにとって重要な手本となりました。この同時代への反響や、その結果遺された模写等は、今日私たちが失われた壁画の構想について知る上で、またルネサンス期の芸術活動の有り様を考察する上でも重要な資料となっています。

第4章 ※ 視覚革命～《アンギアーリの戦い》によるバロック時代への遺産

本章では、レオナルド以前の戦闘画について触れつつ、《アンギアーリの戦い》によって戦闘画において全く新しい視覚的効果を創出したレオナルドと、その影響を受けてレオナルド以降の画家が試みた戦闘画の変遷を比較し、レオナルドの独創性を探ります。とりわけ17世紀のバロック美術に与えた影響をルーベンスやル・ブランに関連した作品を中心に考察します。

エピローグ ※ レオナルドを求めて～ここからはじまる、失われた傑作探求の第一歩

現在見られる《アンギアーリの戦い》に関連する数々の作品、同時代、後世の絵画作品への影響はいずれも失われたかつての傑作がいかにか類い希なる特質を備えた作品であったかを雄弁に物語るものです。今回初公開された《タヴォラ・ドーリア》はそうした数々の手がかりの中でも、レオナルドが生きていた時代に遡る重要作品の一つとして今後も調査研究が進むことが期待されています。ここでは、これまでに検討・実施されてきた《アンギアーリの戦い》に関する調査研究の状況や、《タヴォラ・ドーリア》に関する保存修復措置や科学的調査の現状、研究者の声などを紹介します。

[レオナルド・ダ・ヴィンチと《アンギアーリの戦い》関連略年表]

1440年	1452年 0歳	1482年 30歳	1498年 46歳	1502年 50歳	1503年 51歳	1504年 52歳	1505年 53歳	1506年 54歳	1512年 60歳	1513年 61歳	1516年 64歳	1519年 67歳	1558年	1563年
傭兵隊長ニッコロ・ピッチニノのミラノ軍を、フィレンツェ軍が打ち負かした戦い「アンギアーリの戦い」が起こる。	4月15日、フィレンツェ共和国郊外のヴィンチ村に生まれる。	フィレンツェからミラノに移住、ルドヴィコ・スフォルツァ(イル・モーロ)に仕える。	《最後の晩餐》完成。	チェーザレ・ボルジア率いる教皇軍に軍事技師として従軍。ピエロ・ソデリーニがフィレンツェの終身行政長官に就任。	10月頃《アンギアーリの戦い》の注文を受ける。《モナ・リザ》を描き始める。	夏、ミケランジェロに《カッシナの戦い》が委嘱される。ミケランジェロの《タヴィア》が完成、シニョリーア宮殿正面に移設。12月(2月末頃、レオナルド、シニョリーア宮殿の大評議会広間の壁に描く準備を整える。	「1505年6月6日金曜日、午前9時30分、絵の具を塗り始めた：(レオナルドの覚書)。ミケランジェロ、下絵を描いた後ローマへ呼び戻され《カッシナの戦い》は未完に終わる。	壁画の制作は5月頃までか。ミラノに向かう。	スペイン軍の攻撃によりフィレンツェ敗れ、ソデリーニが亡命する。	ジュリアーノ・デ・メディチに招かれ、ローマに向かう。	フランス国王フランソワ1世に招かれ、フランスに向かう。	4月23日遺言状作成。5月2日没。	ロレンツォ・ザッキアが《アンギアーリの戦い》を模写した版画を制作。	《アンギアーリの戦い》がジョルジョ・ヴァザーリの描いた壁画で覆われる。



(1) レオナルドとミケランジェロ、 二大巨匠の競演を再演

いずれも原作が失われた二大巨匠の壁画が、本邦初公開の貴重な16世紀の板絵作品により500年の時を超えてならびあう、イタリア美術史上初の展示が日本で実現。

(2) レオナルドの革新的な戦闘図 「アンギアーリの戦い」に関する初の企画展

イタリア美術史上の一大エピソードであるレオナルドの失われた「アンギアーリの戦い」に関する作品・資料が一堂に集結する世界でも初めての企画展。鑑賞後「ここからはじまる」作品をめぐる思索。

(3) レオナルドによる戦闘画の視覚革命を体験

レオナルド以前とレオナルド以後でいかに戦闘画が劇的な変化を遂げたか、遺された絵画・素描・版画等の作品・資料によりわかりやすく展示。レオナルドが描いた複雑な人馬の絡み合いを、立体モデルによる三次元で鑑賞します。

本展開催の背景 —イタリア共和国との交流協定

東京富士美術館は、2012年6月、イタリア共和国と交流協定を結び、《アンギアーリの戦い(タヴォラ・ドーリア)》をイタリア共和国に寄贈いたしました。同年12月には、ローマのクイリナーレ宮殿の大統領官邸の会場において、初めて本絵画が公開されました。2013年には、アンギアーリ国立博物館(2013年6月16日～11月3日)、フィレンツェ国立図書館(2013年12月10日～2014年2月28日)において展示され、2014年3月25日から6月29日までウフィツィ美術館「地図の間」において展示公開されました。また、2015年4月15日から5月15日まで、ミラノ万博で開催されるレオナルド展に出品予定となっています。

当館はこのイタリア共和国との交流協定により、2014年7月から2018年6月までの4年間、《アンギアーリの戦い(タヴォラ・ドーリア)》を日本で展示する権利を得ています。このたびフィレンツェ文化財美術館監督局の全面的な協力を得て、《アンギアーリの戦い》について、現在までの学術的成果に基づいて紹介する巡回展を企画することとなったものです。

「天才ダ・ヴィンチのひみつ」展を 同時開催

当館の新館・常設展示室6～8室にて、芸術のみならず、建築、科学、生物学、物理学、軍事技術など幅広い分野で功績を残した「万能の人」レオナルド・ダ・ヴィンチの世界を紹介する展覧会を同時開催します。[会期：5月26日(火)～8月30日(日)]

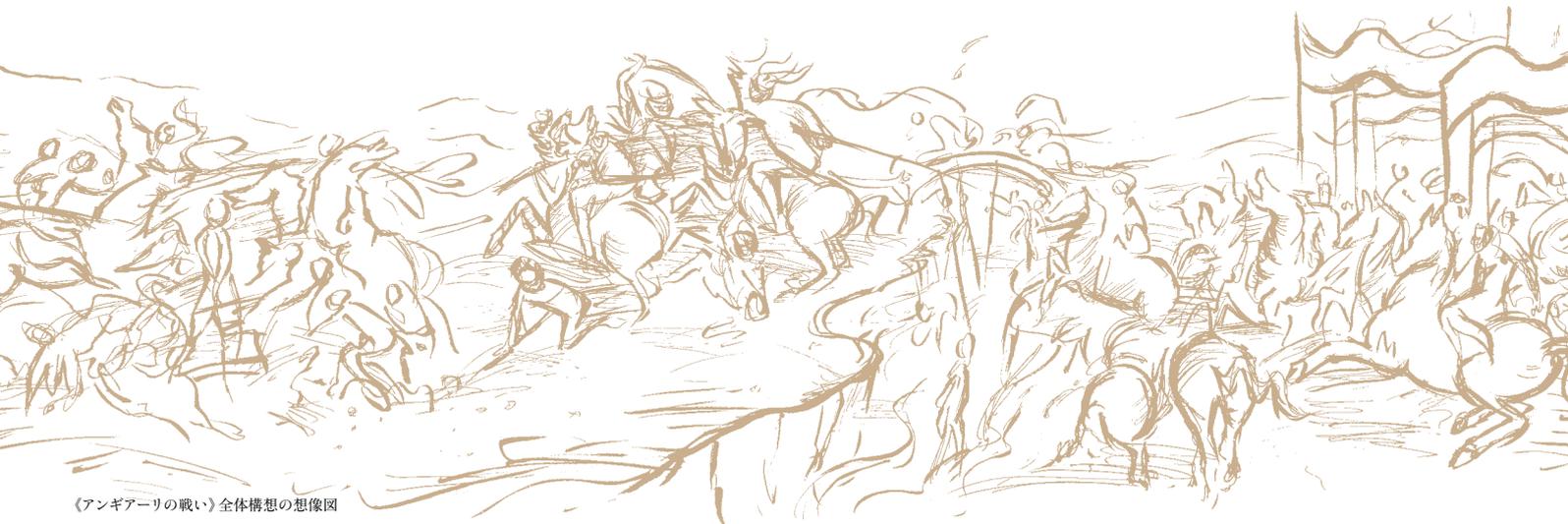
レオナルドの構想をもとに作られた再現模型、手稿(ファクシミリ版)などによる「体験/体感」をキーワードに楽しめる展示です。

《アンギアーリの戦い(タヴォラ・ドーリア)》 に関する貴重なシアター映像

東京富士美術館が本作品をイタリア共和国に寄贈してから、フィレンツェの国立修復研究所で行われた保存修復や科学的分析の様子を記録した貴重な映像に加え、現地ロケで収録された関係者のインタビュー映像なども含む特別映像を館内シアターにて上映予定。



ヴェッキオ宮殿「五百人広間」 © 2014. Photo Scala, Florence



《アンギアーリの戦い》全体構想の想像図

[1]
 レオナルド・ダ・ヴィンチ
 《戦う男たちの習作》
 1504年頃 ペン、インク、リード・ポイント/淡褐色紙 8.7×15.2 cm
 アカデミア美術館 (ヴェネツィア)蔵
 [仙台]

Leonardo da Vinci
Study of men fighting
 c. 1504 Pen, ink, leadpoint on light brown paper 8.7 × 15.2 cm
 Gallerie dell' Accademia, Venice

[2]
 レオナルド・ダ・ヴィンチ (派)
 《「アンギアーリの戦い」のための習作》
 制作年不詳 ペン/黄ばんだ白地紙 17.1×12.6 cm
 ウフィツィ美術館蔵
 [東京]

Leonardo da Vinci (School)
Study for the "Battle of Anghiari"
 Date Unknown Pen on yellowed white paper 17.1 × 12.6 cm
 Galleria degli Uffizi, Florence

[3]
 レオナルド・ダ・ヴィンチ
 《裸体と戦闘場面の習作》
 1506-08年頃 ペン、木炭/黄ばんだ紙 25.0×19.5 cm
 トリノ王立図書館蔵
 [京都]

Leonardo da Vinci
Study of nudes and battle scene
 c. 1506-08 Pen, charcoal on yellowed paper 25.0 × 19.5 cm
 Biblioteca Reale, Turin



[1]



[2]



[3]

✽「アンギアーリの戦い」✽

1440年にアレッツォ近郊のトスカーナの丘陵地帯にあるアンギアーリ村で起きた同地の橋をめぐるミラノ軍とフィレンツェ軍の戦い。傭兵隊長ニコロ・ピッチニーノのミラノ軍の攻撃をフィレンツェ軍が返り討ちにした。フィレンツェ共和国政府がこの戦勝を記念してレオナルド・ダ・ヴィンチに壁画制作を注文した。



16世紀の画家
 《アンギアーリの戦い》
 16世紀 油彩/板 83.0×144.0 cm
 フィレンツェ美術館群蔵 (ヴェッキオ宮殿博物館に貸与)
 [東京][京都][仙台]

Anonymous 16th-century artist
The Fight for the Standard in the Battle of Anghiari
 16th Century Oil on wood 83.0 × 144.0 cm
 Gallerie fiorentine, Florence (On loan to the Museo di Palazzo Vecchio)



[表]



[裏]

[表]

レオナルド・ダ・ヴィンチ
《騎兵、竜、馬、犬の習作》
制作年不詳 ペン、褐色インク/紙 19.4×12.3 cm
ルーヴル美術館蔵
[京都]

Leonardo da Vinci

Studies of Horsemen, Dragons, Horses, and a Dog
Date Unknown Pen and brown ink on paper 19.4 × 12.3 cm
Département des Arts Graphiques du Musée du Louvre, Paris
Photo © RMN-Grand Palais (musée du Louvre) / Thierry Le Mage /
distributed by AMF-DNPartcom

[裏]

レオナルド・ダ・ヴィンチ
《ギャロップで進む騎士、後方からみた馬の頭部》
制作年不詳 ペン、インク/紙 19.4×12.3 cm
ルーヴル美術館蔵
[京都]

Leonardo da Vinci

Galloping Horseman, The Head of a Horse Viewed From Behind
Date Unknown Pen and ink on paper 19.4 × 12.3 cm
Département des Arts Graphiques du Musée du Louvre, Paris
Photo © RMN-Grand Palais (musée du Louvre) / Thierry Le Mage /
distributed by AMF-DNPartcom



16世紀の画家
《聖アンナと聖母子》
16世紀 油彩/板 99.0×72.0 cm
ウフィツィ美術館蔵
[東京][京都][仙台]

Anonymous 16th-century artist
Virgin and Child with St. Anne
16th Century Oil on wood 99.0 × 72.0 cm
Galleria degli Uffizi, Florence



16世紀の画家
《レダと白鳥》
16世紀 油彩/板 130.0×78.0 cm
ウフィツィ美術館蔵
[京都][仙台]

Anonymous 16th-century artist
Leda and the Swan
16th Century Oil on wood 130.0 × 78.0 cm
Galleria degli Uffizi, Florence

レオナルド・ダ・ヴィンチと「アンギアーリの戦い」展 ～日本初公開「タヴォラ・ドーリア」の謎～

Leonardo da Vinci and the Battle of Anghiari

— The Mystery of Tavola Doria —

開催概要・基本情報

会期 2015年5月26日(火)～8月9日(日)
休館日：月曜休館(祝日の場合は開館。翌日火曜日が振替休館)
会場 東京富士美術館 〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1
<http://www.fujibi.or.jp> TEL 042-691-4511
開館時間 10:00～17:00(16:30受付終了)
入館料金 大人 1,300(1,000)円／大高生 800(700)円／中小生 400(300)円／未就学児無料
※新館常設展示室もご覧になれます
※()内は前売券、各種割引料金[20名以上の団体・65歳以上の方・当館メルマガ登録者ほか]
※土曜日は中小生無料
※誕生日当日にご来館された方はご本人のみ無料[証明書をご提示下さい]
※障がい児者、付添者1名は半額[証明書をご提示下さい]

主催 東京富士美術館、読売新聞社
後援 イタリア大使館
協力(予定) NHKエデュケーショナル、アリタリア-イタリア航空、アルテリア、ヤマトロジスティクス
企画 東京富士美術館

取材・掲載に関するお問い合わせ

「アンギアーリの戦い」展広報事務局(ウィンドム内)
担当：田中、沼澤
TEL：03-6661-9448 FAX：03-3664-3833
E-mail：anghiari@windam.co.jp
〒103-0014 東京都中央区日本橋筋4丁目1-28-9-4F

巡回予定

本展は2015年度と2017年度にそれぞれシーズン1、2として巡回を予定しております。
展示構成は基本的に同じ内容で計画されますが、作品は会場毎に変わります。

[シーズン1]

関西展 2015年8月22日～11月23日 京都文化博物館
東北展 2016年3月19日～5月29日 宮城県美術館

[シーズン2](予定) ※変更になる場合があります。

北海道展 2017年6月～8月
中国展 2017年9月～10月
四国展 2017年11月～12月
中部展 2018年1月～3月
九州展 2018年4月～5月

TOKYO FUJI ART MUSEUM
東京富士美術館

〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1 TEL 042-691-4511

アクセス

[バス]

- JR八王子駅北口・西東京バス12番のりばより(平日・土曜の始発から12:27発までは14番のりば)
※ダイヤが変更する場合がございます。
- 京王八王子駅・西東京バス4番のりばより
創備大正門東京富士美術館行き／創備大学循環 創備大正門東京富士美術館下車

[お車]

- 中央高速八王子インターチェンジ、第2出口より八王子市街方面へ進み、国道16号に合流。三つ目の信号(谷野街道入口)を右折、直進し、二つ目の信号(谷野町)を右折。
- 圏央道あきる野インターチェンジ、秋留橋を左折し、国道411号線(滝山街道)に合流。国道16号方面(八王子市方面)へ直進(6km)。純心学園前交差点を右折し直進(700m)。



16世紀の画家(アンギアーリの戦い(タヴォラ・ドーリア))(部分) 16世紀
ウフィツィ美術館蔵(東京富士美術館より寄贈)